

第50回「放送文化基金賞」表彰対象について

放送文化基金賞は、過去1年間(2023年4月～2024年3月)の放送・配信された中から選ばれた、優れた番組・コンテンツや個人、グループに贈られる賞です。今回は、全国の民放、NHK、コミュニティ放送局など、さらに動画配信会社から初めての応募があり、全部で265件の応募、推薦がありました。4月から約2か月にわたる厳正な審査の結果、ドキュメンタリー、ドラマ、エンターテインメント、ラジオの4つの部門で、それぞれ最優秀賞、優秀賞、奨励賞の16作品と、演技賞や映像賞など個人6件、放送文化、放送技術部門で8件、さらに放送文化基金50周年記念賞5件の受賞が決まりました。

受賞者には、賞牌・トロフィー、賞金が贈られます。賞金は、最優秀賞—100万円、優秀賞—70万円、奨励賞—50万円、個人賞—30万円、放送文化、放送技術部門—各30万円、放送文化基金50周年記念賞—50万円です。

贈呈式は、2024年7月9日(火)午後4時30分からオクラ東京で行います。

- 1 ドキュメンタリー部門……………5番組
最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—3
- 2 ドラマ部門……………4番組
最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—2
- 3 エンターテインメント部門……………4番組
最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—2
- 4 ラジオ部門……………3番組
最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—1
- 1～4の中から個人……………6件
「演技賞」……………2件
「映像賞」……………1件
「企画賞」……………2件
「パーソナリティ賞」……………1件
- 5 放送文化部門……………4件
- 6 放送技術部門……………4件
- 7 放送文化基金50周年記念賞……………5件

お問い合わせ先 放送文化基金(担当 川副、鈴木、大園)
東京都渋谷区神山町9-6 日本会館2
TEL(03)5738-7151

第50回「放送文化基金賞」受賞一覧

部 門	賞 (賞金)	受 賞 者	番 組 名・業 績
ドキュメンタリー	最 優 秀 賞 (100万円)	NHK福岡放送局	ETV特集 「膨張と忘却 ～理の人が見た原子力政策～」
	優 秀 賞 (70万円)	テムジン、NHKエデュケーショナル、NHK	鷹を継ぐもの
	(50万円)	NHK広島放送局	NHKスペシャル 原子爆弾秘録 ～謎の商人とウラン争奪戦～
	奨 励 賞 (50万円)	NHK沖縄放送局	BS1スペシャル “戦い、そして、死んでいく” ～沖縄戦 発掘された米軍録音記録～
	(50万円)	沖縄テレビ放送	OTV報道スペシャル 続・水どう宝 ～PFAS 汚染と闘う！Fight For Life～
ド ラ マ	最 優 秀 賞 (100万円)	NHKエンタープライズ、NHK	NHKスペシャル シリーズ“宗教2世” 神の子はつぶやく
	優 秀 賞 (70万円)	テレビ東京	初恋、ざらり
	奨 励 賞 (50万円) (50万円)	Netflix TBSテレビ、TBSスパークル	Netflixシリーズ 忍びの家 House of Ninjas 金曜ドラマ 不適切にもほどがある！
エンター テインメント	最 優 秀 賞 (100万円)	CBCテレビ	歩道・車道バラエティ 道との遭遇
	優 秀 賞 (70万円)	読売テレビ放送	るてんのんてる
	奨 励 賞 (50万円) (50万円)	熊本放送 琉球放送	ななまるテレビ 「今日、解決はしないけど。一熊本で生きるわたしたちのテレビ」 ラジオの神回テレビで語る
ラ ジ オ	最 優 秀 賞 (100万円)	NHK	みんなでひきこもりラジオ
	優 秀 賞 (70万円)	RKB毎日放送	空想労働シリーズ サラリーマン
	奨 励 賞 (50万円)	ニッポン放送	星野源のオールナイトニッポン
	演 技 賞 (30万円)	河合優実	NHKスペシャル シリーズ“宗教2世” 神の子はつぶやく
	演 技 賞 (30万円)	阿部サダヲ	金曜ドラマ 不適切にもほどがある！
	映 像 賞 (30万円)	高倉天地	鷹を継ぐもの
	企 画 賞 (30万円)	賀来賢人	Netflixシリーズ 忍びの家 House of Ninjas
	企 画 賞 (30万円)	松田 望	ななまるテレビ 「今日、解決はしないけど。一熊本で生きるわたしたちのテレビ」
	パーソナリティ 賞 (30万円)	栗原 望	みんなでひきこもりラジオ
放 送 文 化	(30万円)	大森洋平(NHK)	ドラマにおける時代考証での功績
	(30万円)	岡山放送 情報アクセシビリティ推進部	30年にわたる手話を通じた「情報バリアフリー」を目指す取り組み
	(30万円)	『アイヌ語ラジオ講座』制作チーム (STVラジオ)	ラジオ講座によるアイヌ語の理解と継承
	(30万円)	『笑味ちゃん天気予報』制作スタッフ (RSK山陽放送)	10年にわたり番組を通じて地域の農業・農家を盛り上げてきた実績
放 送 技 術	(30万円)	SKYip(スキップ)開発チーム 代表 久米沙也加(NHK)	衛星IP伝送システム(SKYipシステム)の開発・実用化の推進
	(30万円)	ミリ波4Kワイヤレスカメラシステム開発・実用化グループ 代表 松崎敬文(NHK)	ライブ制作でダイナミックなカメラワークを可能とするミリ波4Kワイヤレスカメラシステムの開発・実用化
	(30万円)	プロ野球中継高度化検討チーム(日本テレビ放送網、キャン、読売新聞東京本社) 代表 篠田貴之(日本テレビ放送網)	ボリュメトリックビデオを用いたプロ野球中継
	(30万円)	照明業務支援システム開発チーム(朝日放送テレビ、パナソニック、森平舞台機構) 代表 瀧本貴士(朝日放送テレビ)	照明業務支援システムの開発

*各部門の掲載順は受付順による。

放送文化基金50周年記念賞 受賞一覧

黒柳徹子（女優・ユニセフ親善大使）

テレビ草創期から今日に至るまでテレビ出演者として放送文化を具現化

相田 洋（ドキュメンタリスト）

長年にわたる優れたテレビドキュメンタリーの企画・制作

重延 浩（テレビマンユニオン会長・ゼネラルディレクター）

テレビ番組製作業界を理論的に牽引、
38年にわたり『世界ふしぎ発見！』をプロデュース

NHK連続テレビ小説制作班

放送開始から110作品、日本の朝を元気にする“朝ドラ”を制作

「かぐや」搭載ハイビジョンカメラ開発グループ及び番組制作グループ

初めて見る“地球の出”中継の実現

第50回 放送文化基金賞
— ドキュメンタリー部門 —

最 優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選考理由
ETV特集「膨張と忘却 ～理の人が見た原子力政策～」 2024.3.2(土) NHK福岡放送局	ディレクター 石濱 陵 撮影 野口 真郷 照明 馬渡 規夫 音声 小山 道夫 編集 草場 一友 語り 伊東 敏恵 音響効果 定本 正治 CG制作 富澤 央義 制作統括 鈴木 伸元 東野 真	長年国の原子力政策に関わった研究者・吉岡斉氏が残した数万点の未公開資料「吉岡文書」が見つかった。科学技術史が専門で九州大学の副学長を務めた吉岡氏は、1990年代から国の審議会の委員などを務め、高速増殖炉もんじゅや国策・核燃料サイクルなどをめぐる政策議論に参加してきた。「吉岡文書」には、そうした国の委員会の内部資料や議論の過程を記したメモ、メールや手帳などが含まれている。「熟議」や「利害を超えて議論を尽くすこと」「利権にとらわれない合理的議論」を求め続けた吉岡氏は国の政策決定の議論で何を訴え、何を見たのか。番組では、見つかった「吉岡文書」を詳細に紐解き、今回独自に入手した内部文書や関係者の証言などをもとに国の政策決定の舞台裏に迫る。	長年、国の原子力政策に関わった研究者・吉岡斉氏が残した「吉岡文書」と、取材班が独自に入手した内部文書や証言などをもとに、日本の原子力政策の舞台裏に迫った傑作。 原子力政策は、すでに利権構造が出来上がっているために、「とにかく推進ありき」と、あらかじめ結論づけられている。そのため、会議を空洞化、かつブラックボックス化しようとする政府の無責任な姿がある。しかも重大事故が起きようとも、いったん決めたことは変えられない硬直性。これら合理的思考の欠如は日本の病理と言ってもよい。今も無益な会議によって、重要な政策決定を勝手に決めている、という問題提起は重要である。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選考理由
鷹を継ぐもの 2023.6.30(金) テムジン NHKエデュケーショナル NHK	ディレクター・高倉 天地 撮影・編集 鐘川 崇仁 プロデューサー 齊藤 倫雄 制作統括 寺岡 環 取材 堀口 裕生 音響効果 四元 慧也 映像技術 川越 大祐 音声 阿部 哲也 語り 手寫 葵 出演 松原 英俊 宗 萌美	孤高の鷹匠、松原英俊。山形の霊峰、月山を望む里で“森の王者”と呼ばれるクマタカと狩りに出る生活を50年近く送ってきた。だが数年前に脳卒中を患い、左目も失明。さらにクマタカが老衰、数百年続くタカ狩りの伝統は消滅の危機に。そこに、都会から弟子入りを志願する女子高校生がやって来た。その本気と素質を見込んだ松原は、鷹狩りの極意を伝授しようとするが…。厳冬の日々、タカ狩りに魂を燃やす姿を描く。	日本で唯一、クマタカを使って鷹をする鷹匠を追った作品。山形に住む鷹匠のもとに、女子高生が弟子入りを志願する。年齢も性別も違う二人が、鷹狩りを巡って交流する。鷹狩りという苛酷な仕事と、雪山の静かな情景の対比が美しい。一人で取材、撮影をした高倉天地氏は、映像賞も受賞している。

奨励賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概要	選考理由
NHKスペシャル 原子爆弾秘録 ～謎の商人とウラン争奪戦～ 2023.8.6(日) NHK広島放送局	ディレクター 宮島 優 大小田紗和子 撮影 山本 泰正 音声 落原 徹 照明 岡村 清 編集 延吉 映輝 音響効果 定本 正治 プロデューサー 三隅 吾朗 制作統括 松木 秀文 語り 池松 壮亮 声の出演 松尾スズキ	78年前、広島・長崎に投下され、その年だけで20万を超えるといわれる尊い命を奪った原子爆弾。その開発に重要な役割を果たした“謎の商人”がいる。原爆の原料となるウランをアフリカから密かにアメリカに運び込んだ人物。今回、彼が残した3万ページに及ぶ未公開資料が見つかった。そこに記されていたのは、会社の利益のために奔走した男が、はからずも世界を大きく変えてしまった事実、そして、巨大な力を求める国家の欲望が暴走していく様だった。今につながる“核の時代”はどのようにして始まったのか、原爆開発の知られざる真実に迫る。	原爆の原料となるウランは、誰がいかにして調達したのか。アメリカ政府の要請によってウランを大量に調達し、またその後の独占を許したのは、サンジエという名のベルギーの商人だった。彼はその後の世界を変えた人物として、オッペンハイマーと並び、記憶されるべきだろう。知られざる事実を、意外な側面からあぶり出した作品。
BS1スペシャル “戦い、そして、死んでいく” ～沖縄戦 発掘された米軍録音記録～ 2023.11.12(日) NHK沖縄放送局	語り 高橋 美鈴 撮影 佐々倉 大 音声・照明 益田 雅也 音響効果 佐々木隆夫 編集 西谷 和家 リサーチ 柳原 緑 ディレクター 三宅 佑治 小林宏太郎 制作統括 生田 寛 小池幸太郎	米議会図書館に所蔵された「海兵隊戦闘記録」。兵士の声をラジオでアメリカ国民に届ける目的で収録された音源だ。最前線の戦況、激しい戦闘の直後の兵士の声…浮かび上がるのは、日本軍のゲリラ戦に翻弄され、軍民混在の戦場で神経をすり減らしていく様子。そして、兵士たちは「狂気」に身をゆだねてゆく。20万人以上の命が失われた沖縄戦。音源に加え、元兵士の消息を追い、“地獄”と呼ばれた戦場を「音」から再構築していく。	米軍が、ラジオDJなどを派遣して戦闘の実況を中継し、兵士の声を本国に届けていた音声史料が見つかった。集団自決を目撃した米軍兵士の話など、日本軍が民間人を巻き込んで持久戦を強いたがために、民間人の犠牲を大きくしたことなどが、生々しい音声から十分に伝わってくる。またその声が若いことも、戦争の悲惨さを伝えてくれる。
OTV報道スペシャル 続・水どう宝 ～PFAS 汚染と闘う！ Fight For Life～ 2024.2.13(火) 沖縄テレビ放送	ディレクター 平良いずみ 松本 早織 撮影・編集 大城 茂昭 プロデューサー 山里 孫存 末吉 教彦 構成 渡邊 修一 音楽 丸山 誠 出演 津嘉山正種 仲宗根由美 町田 直美 与那城千恵美	基地の島・沖縄で起きている水の異変。県民45万人が飲んできた水道水に得体の知れない化学物質が含まれていた。その正体は、PFAS・有機フッ素化合物。 「子どもたちを守ってほしい」。不安を募らせる母親たちが声を上げた。しかし…、発覚から8年経つ今なお日米地位協定が壁となり汚染源とされる米軍基地の調査すら実現していない。命を守る母たちの闘いの記録。 一方、米国ではPFASの毒性を重く見て規制値の厳格化が進む。米国で何が起きているのか！？前作『水どう宝』(2022年)に沖縄・米国の最新情報を織り交ぜて完成させた2時間の長編ドキュメンタリー。	米軍基地から排出されるPFASという化学物質の正体は、有機フッ素化合物だった。その汚染の実態は深刻である。地位協定をたてに、基地内の調査はできないと突っぱねる政府。だが、沖縄では一刻も早い対応を訴えるために、母親たちが立ち上がった。その生々しい記録。

第50回 放送文化基金賞

－ ドラマ部門 －

最優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選考理由
NHKスペシャル シリーズ“宗教2世” 神の子はつぶやく 2023.11.3(金) NHKエンタープライズ NHK	演出・脚本 柴田 岳志 脚本 川 恵実 野田 慈伸 撮影 山本 周平 田島 茂 美術 遠藤真樹子 演出補 鳥飼 久仁 制作統括 梅内 庸平 プロデューサー 大越 大士 家富 未央 出演 河合 優実 田中 麗奈 根本 真陽 杉田 雷麟 岩男 海史 吹越 満 萩原 聖人 渋谷 清彦 酒井 若菜 森山 未来 ほか	ある宗教団体の熱心な信者・木下愛子(田中麗奈)のもとで、幼少期から“神の子”として育てられた長女・遥(河合優実)は、学校でのつながりや部活、カラオケ等の楽しみを禁じられる。母に従順な妹・祈(根本真陽)も、成長と共に感じる窮屈さをひた隠しにしながら生きる。夫婦でたこ焼き屋を営み、慎ましくも幸せになりたいと願ったはずの家族。ところがある時、妻と娘たちとの絆を信じた父・信二(森山未来)が病で命の危機に晒される。厳しい現実を前に、それぞれの“信じる”気持ちが壊れ始める。遥と祈は、生き方を分かちながらも、同じ問いを心の中でつぶやく。「お母さんは、どうして神様を信じたの?」。 安倍元首相銃撃事件を機に声を上げ始めた“宗教2世”たちと、その家族への徹底取材に基づくオリジナルドラマ。善と悪を分ける神の教えと、親への愛。その狭間で激しく揺れる“宗教2世”の心を、姉妹の“個”の視点から深く掘り下げて描く。	現在の日本が今まさに向き合うべき「宗教2世」の問題を、子供の視点から描くと同時に、家族の愛をしっかりと描いて、観る者の心を鷲掴みにした。少女が家を飛び出したあとの苦悩と葛藤が、普遍的な問題として丁寧に描かれているところも評価された。主役の河合優実の演技が秀逸であり、宗教に救いを求める母親役の田中麗奈ほか俳優陣が充実していた。しっかりとしたリサーチに基づく脚本と演出に支えられた名作である。

優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選考理由
初恋、ざらり 2023.7.7(金)～9.22(金) <全12回> 応募は第1回、2回、11回、12回 テレビ東京	原作 ざくざくろ 脚本 坪田 文 矢島 弘一 音楽 小山絵里奈 監督・脚本 池田 千尋 監督 七字 幸久 倉橋 龍介 チーフプロデューサー 祖父江里奈 プロデューサー 北川 俊樹 廣瀬 雄 出演 小野 花梨 風間 俊介 尾美としのり 熊谷 真実 西山 繭子 若村麻由美 ほか	軽度知的障害と自閉症がある上戸有紗(小野花梨)は、“普通”に憧れを持ち、自己に強い劣等感を抱いている。夜はコンパニオンとして働いているが、昼は障害を隠して運送会社で働くことに。必死にメモを取りつつも、言葉の意味が分からず戸惑う有紗。そんな有紗に優しく声をかけてくれたのが職場の上司である岡村龍二(風間俊介)だった。常識的なことを質問しても気兼ねなく教えてくれる岡村。そんな岡村の優しさに有紗は恋心を抱いていくが、二人の間には様々な壁が立ちはだかる。綺麗ごとだけではない二人の関係を真摯に描いたラブストーリー。	好きな人のことを考えると頭がいっぱいになって何もわからなくなるといふ恋愛の本質をストレートに鋭く掘り下げ、切なく美しく描いた近年稀な、純愛ものの傑作である。「普通の女の子」を演じた主演の小野花梨の魅力ある演技が作品を支えた。母親役の若村麻由美の演技も高く評価された。

奨励賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
<p>Netflixシリーズ 忍びの家 House of Ninjas</p> <p>2024.2.15(木) ＜全8回＞ 応募は第1回、8回</p> <p>Netflix</p>	<p>監督・脚本 監督 脚本 エグゼクティブ・プロデューサー プロデューサー 共同エグゼクティブ・プロデューサー 出演</p> <p>デイヴ ボイル 瀧本 智行 村尾 嘉昭 山浦 雅大 大浦 光太 木村 緩菜 佐藤 善宏 神戸 明 賀来 賢人 賀来 賢人 江口 洋介 木村 多江 高良 健吾 蒔田 彩珠 番家 天嵩 宮本 信子 吉岡 里帆 山田 孝之 ほか</p>	<p>世界最大級のオンラインエンターテインメントサービスを提供するNetflixは、企画・製作をするNetflixシリーズ「忍びの家 House of Ninjas」を独占配信中。これまで何度も映像化され、そのミステリアスさと恐るべき身体能力で世界中を魅了してきた“忍び”。そんな“忍び”が、この現代日本にいままだ身を潜めているとしたら——。本作は現代の日本を舞台に、過去のとある任務をきっかけに忍びであることを捨てた最後の忍び一家・俵(タワラ)家が、国家を揺るがす史上最大の危機と対峙していく完全オリジナルストーリー。</p>	<p>放送文化基金初のNetflixからの応募・受賞作となり、エポックメイキングな受賞となった。家族の愛を描くドラマでありながら、貧困格差や古い因襲から抜け出す突破口がある爽快さや魅力があった。何よりも世界的にヒットとなった大胆な作風が評価された。</p>
<p>金曜ドラマ 不適切にもほどがある！</p> <p>2024.1.26(金)～3.29(金) ＜全10回＞ 応募は第1回、5回</p> <p>TBSテレビ TBSスパークル</p>	<p>脚本 音楽 演出 プロデューサー 撮影 照明 音声 編集 美術 出演</p> <p>宮藤官九郎 MAYUKO 金子 文紀 磯山 晶 天宮沙恵子 伊澤 昭彦 大金 康介 中山 大輔 松尾 茂樹 岡嶋 宏明 阿部サダヲ 仲 里依紗 磯村 勇斗 河合 優実 坂元 愛登 山本 耕史 古田 新太 三宅 弘城 袴田 吉彦 吉田 羊 ほか</p>	<p>昭和の「当たり前」は令和の「不適切」！？ 意識低い系“昭和のおじさん”小川市郎が令和にタイムスリップすることで感じるギャップや共感を描く。市郎の極論は、コンプライアンス遵守に縛られた令和の人々へ考えるきっかけを与えていくが… 時代は変わっても、親が子を想う気持ち、子が親を疎ましく想う気持ち、誰かを愛する気持ちという変わらないものもある。妻を亡くした市郎とその一人娘、そしてタイムスリップしたことで出会う人々との絆も描く。時代とともに変わっていいこと、変えずに守るべきことを見つめ直す、宮藤官九郎脚本のオリジナルドラマ。</p>	<p>ポリティカル・コレクトネスが「普通」となってしまった令和の息苦しさを痛快に批判した点が評価された。ミュージカル仕立て等のエンタメ性にも、宮藤官九郎脚本ならではのシャープさがあった。昭和の古い価値観を笑いに包み、「普通」と「不適切さ」について考えさせてくれる作品だ。</p>

第50回 放送文化基金賞
— エンターテインメント部門 —

最 優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選考理由
歩道・車道バラエティ 道との遭遇 2023.5.30(火) CBCテレビ	プロデューサー 横山 公典 柳橋 弘紀 演出 飯田 亮太 ディレクター 大貫 翔平 構成 渡辺 佑欣 橋本 修平 アシスタントプロデューサー 今西 由香 ナレーション 浅野 真澄 出演 昴生(ミキ) 亜生(ミキ) 鹿取 茂雄 石井あつこ	「道」を主題にした番組で、毎週、全国各地のもの珍しい道だけを紹介しています。道を巡るのは番組常連の道マニア8名。暴走しないようにいつも違った旅のお供が同行します。今回は、数ある道の中でも「なんでそうなっているの?」という特に不思議な道3つを巡りました。 まずは三重にある謎のロータリー。巡るのは、道マニア界のレジェンド鹿取茂雄。5人の子供を持つ7人家族。しかし、愛車は軽のソニカ(4人乗り)。「道の謎」追求に余念がありません。 2つめは山梨の二段構造になっているトンネル。巡るのは「廃道」専門のマニア、石井あつこ。人々から忘れられた「道」を求めて全国を駆け巡ります。私生活は謎に包まれている孤高の存在。「道」そのものが人生と言いつちります。 3つめは岐阜の長大道路。巡るのは鹿取茂雄。地元の岐阜で、岐阜県民も知らない道の秘密を伝えます。	道だけでレギュラー番組を作ろうと決めたその思い切りの良さに賞賛を贈りたい。用途不明の謎の道、今は使われなくなった廃道、車の通行すら困難な「酷道」など、全国各地には珍しい道がこんなにもあるのかと驚かされる。しかも「理由のない道はない」というその言葉通り、どんな「道」にも「未知」の物語があり、それを紐解くことで人々の暮らし、地域の歴史が見えてくる。マニアックな探求の中に、人間への好奇心があふれる珠玉のバラエティである。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選考理由
るてんのんてる 2023.6.30(金) 2023.7.7(金) 読売テレビ放送	チーフプロデューサー 山本 陽 プロデューサー 上野 正樹 伊藤 隆洋 中屋敷 亮 企画・ディレクター 高橋優佳里 構成 上田まさる 出演 後藤 輝基 (フットボールアワー) 岩尾 望 (フットボールアワー) 天羽 希純 (#2i2)	「るてんのんてる」とは、読売テレビのディレクター陣が週替わりで渾身の企画を放送する挑戦バラエティ番組。今回受賞したのは入社5年目(当時)の高橋優佳里ディレクターの企画「ドキュメント_プランB」。 思い描いた理想の人生じゃない…そんな思いがよぎったとしてもそれは自分に限ったことではありません。世の中の大半の人は同じように夢を諦め、だからといって人生を投げ出すことなく妥協しながらも生きているはず。 そこで今回スポットを当てたのは、夢を叶えられなかった一般人。ただ単にその生活に密着するのではなく、その人が子どもの頃に叶えたかった理想の人生を描いたフェイクドキュメンタリーパートと、現実の生活に密着したドキュメンタリーパートの2部構成で仕立てました。バリキャリ看護師に扮していたのは、仕事と家事に追われ夢を諦めた5児の母！さらに権威ある天文学者に扮していたのは、無職の中年独身男性！ 理想の人生と現実の人生、果たしてどちらが幸せだったのか…	フェイクドキュメンタリーの手法を効果的に用いて、理想の人生と現実の人生を対比するという発想が新しい。主人公たちの夢は叶わなかったけれど、それでも投げ出さず、今を懸命に生きている。夢に敗れた人たちへの応援歌のような番組である。

奨励賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選考理由
<p>ななまるテレビ 「今日、解決はしないけど。 —熊本で生きるわたしたちのテレビ—」</p> <p>2024.1.10(水)</p> <p>熊本放送</p>	<p>企画・演出 松田 望 ディレクター 堀田 結生 撮影 中川 亮 牛嶋孝一郎 田中 文子 音声 日高 歩美 MA 田中健太郎 制作統括 北山 周平 アシスタントディレクター 黒澤 真咲 収録 松岡 秀都 出演 田名網駿一 糸永 有希 上村竜太郎 塚原まきこ 山内 要 田畑 愛 磯田 淳 竹内 義晴</p>	<p>複雑化、多様化する社会の流れの中で、実はついていけないことや、腑に落ちていないこと—そんなもやもやについて、RKKアナウンサーがゲストとともに「答えを出さずに」考える1時間のトーク番組。</p> <p>テーマ①「生理について考える」では、これまで生理についての話題を避けてきた50代の男性タレントをゲストに招き、「男性アナウンサーが家族の代わりに生理用品を買いにいった」というエピソードに対して、生理に関する様々な価値観をもとに意見を交換。また、RKKの社内研修として実施した「生理痛体験研修」のVTRを通して、生理をめぐるコミュニケーションの難しさについて話し合いました。</p> <p>テーマ②「ジェネレーションギャップから働きやすさを考える」では、60代の経営者、20代のディレクターが登場し、上司が抱える「指導の難しさ」や、部下が抱える「指導されないことへの不安」など、普段話せない微妙な本音を語り合いました。</p>	<p>すぐに解決策や答えが求められる現代において、あえて「解決しない」「答えを出さない」という姿勢を貫くことは実は難しい。これまでの優等生的なテレビの作り方に異を唱え、自分たちの悩みを率直に語り合える広場を作り出そうとする意欲的なトーク番組である。</p>
<p>ラジオの神回テレビで語る</p> <p>2023.12.29(金)</p> <p>琉球放送</p>	<p>ディレクター 飯島 将太 編集 田邊 志麻 出演 與那嶺 啓 くだか まり モコ 嘉 大雅 仲村 美涼 鎌田 宏夢</p>	<p>RBCiラジオで放送された爆笑回や注目を浴びた回、印象に残っている回など、いわゆる神回の音源をラジオ番組パーソナリティと一緒に聴きながら、当時の裏話や後日談などを語りつくすバラエティ番組です。</p> <p>音声だけのラジオをすべてテロップで表記し可視化することで、ラジオ番組を知らない人、当時聞いていない人でも楽しみ、1度聞いたことがある番組リスナーは、文字でラジオを見ることによって、また違った面白さを感じることでできる仕組みとなっています。</p> <p>紹介した神回は、お昼の帯番組「MUSIC SHOWER Plus+」のリスナーから届いたエピソードで、昔の写真を親族で見っていた時に、間違えて見せてしまったゴリラの写真を祖母と叔母がまさかの勘違いをした回や、高校生の時に占い師から衝撃のパワーワードを言われた回など、思わず声を出して笑ってしまう内容となっています。さらに朝の帯番組「アップ！！」で起きた大事件も神回としてお届けしました。</p>	<p>ラジオの面白さをテレビで再発見するという新しい楽しみ方を提案することに成功している。ラジオの音源を視覚的にどう見せるかという工夫も凝らされている。ラジオとテレビの双方の魅力を熟知したラ・テ兼営局ならではのユニークな試みである。</p>

第50回 放送文化基金賞

— ラジオ部門 —

最優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
<p>みんなでひきこもりラジオ</p> <p>2023.4.28～毎月最終金曜日放送中 応募は第20回、21回</p> <p>NHK</p>	<p>チーフプロデューサー 石井 直人 ディレクター 橋本 美規 稲角 牧子 佐藤 直樹 松本 慶子 花木 伸江 音響効果 ミキサー 内田 裕輔 制作統括 花田 幸一 パーソナリティ 小野 勇人 栗原 望</p>	<p>ひきこもり当事者のメッセージやリクエストを、パーソナリティが、ただひたすらに、紹介していく番組です。現在、ひきこもりとされる人は、全国でおよそ146万人、中でも40代～60代は70万人以上と推計されており、深刻な社会課題になっています。ひきこもり当事者は、社会と距離を置いているため、その実情を把握することも難しい状況です。</p> <p>この番組では、寄せられる当事者の悩みや困りごと、本音を聴くのは、専門家でも著名人でもありません。同じ当事者であるリスナーです。当事者は、ひきこもりに至った理由も、人間関係や就労の環境なども、みな違っており、千差万別です。番組が、それぞれが納得できるアドバイスや意見を提示するのは難しく、それよりも、孤立している当事者たちが、ラジオでリスナーとして集まる「場」になることを目指しています。</p> <p>4年前の特番から始まり、2023年度は毎月1回放送です。現在、全国各地で様々なひきこもっているリスナーの声が、各回、数百を超えて集まる番組になっています。</p>	<p>人は誰でも引きこもりたい気持ちを持っているけれど、現代の日本社会はそこに安住することを許さない厳しさがある。その苦しさや辛さを匿名のまま、カオナシの状態集合して、お互いがその気配だけを発信しながら緩やかな人だかりを形成する。ネットも民放でも出来ないことを、NHKラジオだからこそ可能にした。焚火の音を真ん中にして、そこにみながいるということは確実に伝わる。奇跡的に緩やかな番組。</p>

優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
<p>空想労働シリーズ サラリーマン</p> <p>2023.8.22(火) ～10.10(火) <全8回></p> <p>RKB毎日放送</p>	<p>企画・脚本・編集 富士原圭希 音楽 松隈ケンタ ミキサー・編集 金山 宏美 ナレーション 茅野 正昌 出演 関 智一 別府あゆみ 菊地 美香 吉田 友一 広瀬 仁美 たなかえり 庄野崎 謙 岡崎 徹 服部 義夫 坂田 周大 田畑 竜介 武田 早絵 富士原圭希</p>	<p>昭和98年(≡令和5年)、高度経済成長の末、労働人口が9割を超えた日本。突如として出現した「会獣」の前に蹂躪される労働者たち。立ち向かうRKB(=労働環境防衛保障)だが、絶体絶命のピンチを迎える。その時、人々の前に姿を現した巨人、その名は「サラリーマン」。身長51m、体重5万1千トン、必殺技は「ストライキ光線」。地球での就業時間はわずか1分で、時間が経つとザンギョウランブが点滅する。プロレタリア星からやってきた彼は、会社員として多くの制約を抱えながら、労働者のため会獣に立ち向かう。それ行け、サラリーマン!</p>	<p>ラジオと特撮ものという大きな矛盾を見事に融合させ可能にしたのは、スタッフたちのかつての特撮ものへのリスペクトである。パロディであることによって、複雑な問題を避けずに取り上げて単純化し整理した手腕は見事。新しいラジオドラマの可能性を開拓したのではなかろうか。</p>

奨励賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
星野源のオールナイトニッポン 2024.1.2(火) ニッポン放送	プロデューサー 林 佑介 ディレクター 落合 凌大 岩田 南実 ミキサー 松岡 実佑 構成 寺坂 直毅 宮森かわら 加藤 俊甫 パーソナリティ 星野 源	元日に日本を襲った「令和6年能登半島地震」。その翌日の深夜1時からの『星野源のオールナイトニッポン』は、年末に収録したものをオンエアする予定だったが、パーソナリティである星野源の提案で急遽生放送に変更した。番組冒頭で「一緒に不安になりましょう。きょうは一緒に時間を過ごすというのが目的だと思います」と語りかけた星野源。「いつも通り」の放送を全国に届けるべく、いつものようにリスナーからのメールを読み、寄せられたリクエストに応え、被災地で聴いている方々に寄り添いながら、リスナーと“思いを共にする”2時間をお送りした。	ラジオの同時性と広域性という特徴を見事に生かした。その理性と配慮によって、星野源たちの力は、その場にはない聞き手たちを、あの時間に思わず惹きつけていく魅力をもって、迫ってくる。

第50回放送文化基金賞

演技賞

受賞者	対象番組	選考理由等
かわい ゆうみ 河合 優実	NHKスペシャル シリーズ“宗教2世” 神の子はつぶやく 〔 NHKエンタープライズ NHK 〕 ドラマ部門	宗教2世としての「普通」の暮らしと、信仰の呪縛から逃れられない葛藤を圧倒的な説得力をもって演じた。壊れそうな繊細さと、したたかな美しさを表現できる実力派女優である。

演技賞

あべ 阿部 サダヲ	金曜ドラマ 不適切にもほどがある！ 〔 TBSテレビ TBSスパークル 〕 ドラマ部門	令和にタイムスリップした昭和のおじさんを、嫌みにならず、愛嬌とユーモアを以て痛快に演じられる俳優は、この人以外に考えられない。その存在感の大きさは類を見ない。
--------------	---	---

映像賞

たかくら てんじ 高倉 天地	鷹を継ぐもの テムジン 〔 NHKエデュケーショナル NHK 〕 ドキュメンタリー部門	雪山を舞う一羽のクマタカ。白い雪山と暗い室内。女子高生の白い顔と老鷹匠の面持ち。すべてがモノクロの対比で表れているような映像世界は美しい。たった一人で取材・撮影・録音をされた高倉氏に。
-------------------	---	--

企画賞

かく けんと 賀来 賢人	Netflixシリーズ 忍びの家 House of Ninjas (Netflix) ドラマ部門	『忍びの家』の主演も見事に務める俳優であるが、オリジナルの企画を温め、デイヴ・ボイル監督を始めとするスタッフの力を得て世界的にヒットさせたその発想力・行動力が高く評価された。
-----------------	---	---

企画賞

まつだ のぞみ 松田 望	ななまるテレビ 「今日、解決はしないけど。 一熊本で生きるわたしたちのテレビー」 (熊本放送) エンターテインメント部門	「今日、解決はしないけど。」の企画・制作を通して、トーク番組のテーマ選定やその伝え方に新機軸を持ち込み、広場としてのローカルテレビの可能性を示した。
-----------------	--	--

パーソナリティ賞

くりはら のぞむ 栗原 望	みんなでひきこもりラジオ (NHK) ラジオ部門	緩やかで暖かで、発信者であることを捨て、あくまでも受け取り手である立場を静かに守りながら、しっかりと発信するただならぬ技術は、本物の共感力のたまものだろう。
------------------	--------------------------------	--

第50回 放送文化基金賞
— 放送文化部門 —

受賞者	業績	業績内容・選考理由
おおもり ようへい 大森 洋平 (NHK)	ドラマにおける 時代考証での功績	NHK番組制作ディレクターを経て、1999年大河ドラマ『葵 徳川三代』から時代考証に従事。2008年からドラマ部所属。25年にわたり大河ドラマや連続テレビ小説、時代劇など数々のドラマにおける時代性表現のクオリティアップに貢献。歴史家など専門家からの意見も踏まえつつドラマ的に面白くなるように提言してきた。2013年に、その成果「考証要集」を刊行し、今では制作現場のバイブルとなっている。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
岡山放送 情報アクセシビリティ推進部	30年にわたる手話を通じた「情報バリアフリー」を目指す取組み	「情報から誰一人取り残されない社会」を目指し、30年前からろう者と手話放送を制作。様々な“岡山モデル”を生んできた。地域のろう団体と立ち上げた“OHK手話放送委員会”では、テレビ独自の手話表現を考案。協力する企業名を表示する“手話協力”では、チャリティーやボランティアに頼らない持続可能な手話放送を実現。スポーツ分野では、日本初の手話実況の実践や手話実況者を育成するアカデミーも設立。今、“岡山モデル”は、手話放送普及のモデルケースとしてだけでなく、全ての人に向けての情報伝達手段へと発展している。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
『アイヌ語ラジオ講座』制作チーム (STVラジオ)	ラジオ講座によるアイヌ語の理解と継承	STVラジオは、1987年(昭和62年)10月から初心者向けのやさしい『アイヌ語ラジオ講座』を放送している。今でも北海道の地名はアイヌ語が由来となっているものが多く、数多くの言葉が残っている。19世紀から始まった同化政策により、アイヌ語の話者は年々減少、日常会話での使用者もどんどん少なくなり、アイヌ文化は衰退の危機にある。ラジオ講座を通じてアイヌ語を身近な言葉として残していきたいという思いから、30年以上ラジオ放送を続け、北海道のアイヌ文化保存の一翼を担っている。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
『笑味ちゃん天気予報』制作スタッフ (RSK山陽放送)	10年にわたり番組を通じて地域の農業・農家を盛り上げてきた実績	『笑味ちゃん天気予報』(月～金 18:50～19:00)は、農業産出額が中四国でナンバー1を誇る岡山県から、農家と一緒に届ける天気予報。2014年4月“農業を元気に”“農家を元気に”“地域を元気に”を目的にスタートし10周年を迎えた。番組は、農家にとって大事な天気の情報とあわせて、旬の農産物の紹介は勿論、生産者の取組みや農業にかける思い、地域に伝わる食文化などに光を当て、時に自治体の長も出演するなど、地域全体で農業を盛り上げようと奮闘している。

第50回 放送文化基金賞

— 放送技術部門 —

受賞者	業績	業績内容・選考理由
<p>SKYip(スキップ) 開発チーム</p> <p>代表 <small>くめ さやか</small> 久米 沙也加 (NHK)</p>	<p>衛星IP伝送システム (SKYipシステム)の 開発・実用化の推進</p>	<p>大規模災害時等で携帯電話網が利用できない場合においても、現場と放送局を、衛星を介して映像伝送・インターネット接続を可能とさせ、さらに従来の複雑な接続テスト・雨量による送信モード切替も自動化、誰もが簡単に操作できるようにしている。小型車の開発も併せ行い、すでに全国にSKYip対応SNG中継車や可搬型CS-IP伝送装置が導入され、能登半島地震においても携帯電話網・道路が寸断される中で被災状況を発災直後から発信し続けたことは極めて高く評価できる。</p>

受賞者	業績	業績内容・選考理由
<p>ミリ波4K ワイヤレスカメラシステム 開発・実用化グループ</p> <p>代表 <small>まつさき よしふみ</small> 松崎 敬文 (NHK)</p>	<p>ライブ制作でダイナミックなカメラワークを可能とするミリ波4Kワイヤレスカメラシステムの開発・実用化</p>	<p>4Kのライブ制作が増える中、これまでは2Kワイヤレスカメラしかなく4K化が課題となっていた。今回、大容量・高信頼な伝送方式を開発・実用化し、4K有線カメラと切り替えても違和感のない高画質・低遅延な4Kワイヤレスカメラを実現した。これによって出演者の間近を移動しながら撮影する迫力あるカメラワークも4K画質で実現でき、2023年末の紅白歌合戦のオープニングで1分半の連続撮影をする等、演出効果を高めたことは高く評価できる。</p>

受賞者	業績	業績内容・選考理由
<p>プロ野球中継 高度化検討チーム (日本テレビ放送網、キヤノン、読売新聞東京本社)</p> <p>代表 <small>しのだ たかゆき</small> 篠田 貴之 (日本テレビ放送網)</p>	<p>ボリュメトリックビデオを用いたプロ野球中継</p>	<p>101台の専用カメラを、球場グラウンドを取り囲むように設置、これらの映像から空間内の自由な位置、角度からの映像を再生できるボリュメトリック(自由視点)映像を生成、選手目線の映像やファインプレイの瞬間を停止して上下左右自由な位置からの映像で再現するなど従来のカメラでは実現できない視点からのリプレイ映像を実現した。2023年には東京ドームの巨人戦全68試合で使用し好評を得ていることは高く評価できる。</p>

受賞者	業績	業績内容・選考理由
<p>照明業務支援システム 開発チーム (朝日放送テレビ、パナソニック、森平舞台機構)</p> <p>代表 <small>たきもと たかし</small> 瀧本 貴士 (朝日放送テレビ)</p>	<p>照明業務支援システムの開発</p>	<p>スタジオ照明設備のLED化が進んでいるが、電源線のほかに制御線の接続、照明ネットワークの設定も必要となり、業務量は白熱球の5割増しと試算された。本システムでは照明ネットワーク設定作業の自動化、照明器具のボタンへの吊込み位置表示システム等を開発、業務量を白熱球時代の1/2~3/4に軽減することに成功している。女性の進出が著しい照明業務の中で本システムの開発による働き方改革への取り組みは高く評価できる。</p>

放送文化基金 50 周年記念賞

受賞者：くろやなぎてつこ黒柳 徹子（女優・ユニセフ親善大使）

対象となる業績：テレビ草創期から今日に至るまでテレビ出演者として放送文化を具現化
受賞理由

1953 年 2 月 1 日のテレビ放送開始のその日からテレビ出演を続けるテレビ女優第一号。司会者、タレント、女優として第一線を走り続け、トレードマークのタマネギヘアで日本中の視聴者に親しまれてきた。1976 年に始まったテレビ朝日『徹子の部屋』は 49 年目を迎え、トーク番組の最多放送世界記録を更新中である。その持続力、足跡はまさに日本のテレビ文化を具現化し続けたものといえる。

受賞者：あいだ ゆたか相田 洋（ドキュメンタリスト）

対象となる業績：長年にわたる優れたテレビドキュメンタリーの企画・制作
受賞理由

1960 年NHKに入局以来、看板番組「NHK特集」「NHKスペシャル」を舞台に、『世界の科学者は予見する・核戦争後の地球』『電子立国 日本自叙伝』『マネー革命』など数々の斬新なドキュメンタリー番組を制作し、高い評価を得た。定年退職後もフリーのディレクターとして、自らの介護体験を描いた『NHKスペシャル “認知症 800 万人”時代 母と息子 3000 日の介護記録』や、『母と歩いた道～相田洋の満州引き上げ録』を制作。2019 年に放送した『移住 50 年目の乗船名簿』は南米移民を 50 年間記録し続けたライフワークの集大成となった。半世紀以上にわたって放送文化に新しい力を吹き込んできた。

受賞者：しげのぶ ゆたか重延 浩（テレビマンユニオン会長・ゼネラルディレクター）

対象となる業績：テレビ番組製作業界を理論的に牽引、
38 年にわたり『世界ふしぎ発見！』をプロデュース

受賞理由

日本最初の独立系テレビ製作会社・テレビマンユニオンの創設に参画し、経営に携わるとともに、日本のテレビ製作会社の理論的リーダーとして業界を牽引。日本のテレビ番組の海外見本市への道を積極的に拓くなど数々の貢献を果たす。1986 年から 2024 年 3 月までTBS系列で放送されてきた『世界ふしぎ発見！』を企画・プロデュースし看板番組に育て上げ、日本の放送文化に大きく寄与した。

受賞者:NHK連続テレビ小説制作班

対象となる業績:放送開始から 110 作品、日本の朝を元気にする“朝ドラ”を制作

受賞理由

1961 年 4 月に新聞小説のテレビ版を目指して放送を開始、第1作の『娘と私』から、現在放送中の『虎に翼』まで 110 作品にのぼる。通称“朝ドラ”と呼ばれ、朝にドラマを見るという視聴習慣を生み出し、人々の心を日々豊かに潤す力となっている。時代時代を懸命に生き、たくましく成長する主人公の姿は多くの人を元気づけてきた。視聴者の人生の記憶に残るような作品を輩出し続けている。

受賞者:「かぐや」搭載ハイビジョンカメラ開発グループ及び番組制作グループ

対象となる業績:初めて見る“地球の出”中継の実現

受賞理由

2007 年月周回衛星「かぐや」に搭載したハイビジョン高精細撮影システムの開発により「地球の出」をはじめとする貴重な映像を撮影、宇宙空間から地球に伝送することに成功し、NHK のニュースや特集番組などで放送された。ハイビジョンカメラが映し出す月面の様子や地球の鮮明な映像は見る者に深い感動を与え、放送の歴史に新たな1ページを付け加えるとともに、技術開発によって、それまでは実現不可能であった「見たことがない映像」を撮影し伝えることができるというテレビの可能性、素晴らしさを改めて広く認識させた。